



フクヒロペアの軌跡

～東京2020オリンピック～



パブリックビューイングを開催しました

7月29日(金)、中央公民館でバドミントン女子ダブルス準々決勝のパブリックビューイングを開催しました。廣田彩花選手の親族のほか、町民約30人が参加しました。中国ペア（銀メダル獲得）との対戦で、手に汗握る激しいラリーの応酬に、会場はコロナ対策で大声や歓声を送ることができない中、バルーンを叩いて盛り上がりました。

終了後、彩花選手の兄・赳士たけしさんは、「けがをしている中で、常に前向きに頑張っていた。勇気づけてくれてありがとう。」と話されました。



2人の目標である金メダルには届きませんでした。最後まで諦めずに全力でシャトルを追うことができ、今の精一杯の力は出せたと思います。

スポーツの素晴らしさ、夢を持つことの大切さ、最後まで諦めない心、何か誰かの心に届いていれば私達も嬉しいです。

コロナ禍で大変な状況の中ですが、一緒に乗り越えていきましょう。

本当にたくさんの応援ありがとうございました。

7月23日(金)、東京2020オリンピックが開幕しました。本町出身の廣田彩花選手は、福島由紀選手（八代市出身）とのペア（愛称・フクヒロ）で、バドミントン女子ダブルスの試合に臨みました。

廣田選手は、6月の日本代表合宿中に右足の前十字靭帯断裂の大きがを負いながらも、けがを感じさせない動きで相手ペアのシャトルをことごとく跳ね返し、気迫のこもった全力プレーを見せてくれました。

予選リーグを2位で勝ち上がり迎えた準々決勝。これまでの国際大会でも何度も対戦したことのある中国ペア（世界ランク3位）を相手に、最後まで粘り強く、一生懸命に戦うフクヒロペアらしいプレーを見せてくれました。

結果は、惜しくも敗れてベスト8。メダルまであと一歩届きませんでした。最後まで諦めずに戦う姿は、私たちに勇気と感動を与えてくれました。試合後には、中国ペアと健闘を称え合うシーンも見られ、オリンピックの素晴らしさを感じさせられました。

熱戦を戦い終えたフクヒロペアのお2人から、町民の皆さんに向けたメッセージをいただきました。ぜひ2人の思いをこー読んでください。

こんにちは。バドミントン日本代表の福島由紀、廣田彩花です。

東京2020オリンピックでは、皆さんの皆様のご声援のおかげで素晴らしい舞台でプレーすることができました。